

# どこに行ったかも大切だが、最も大切なのは誰と行ったかだ

北野小 丹羽 郁人

五年「山の学習」(令和三年十一月四日(木))

テーマ「挑戦し、深めよう八十九人の絆」 岡崎市少年自然の家

本校五年生が、岡崎少年自然の家に於いて「山の学習」を実施した。



天候に恵まれ、充実した活動になった。飯盒炊飯、アスレチック、落ち葉スキー、そしてキャンプファイヤー……。五年生の取り組みは素晴らしかった。しっかりと話を聞く時、「班」で協力して動く時、レクリエーションやスタンプを心の底から楽しむ時など、メリハリをもって取り組むことができた。

実行委員会を立ち上げたこと。テーマを子供たちが決めたこと。そのテーマに、ことあるごとに振り返り、そこに向かっているか確認できたこと。何より子供たち自身の企画・運営をメインにした「山の学習」だったこと。素敵な「山の学習」であった。

そして、いちばんうれしかったのは、山の学習から帰ってきてから、担任の先生を中心に「〇〇さんが、こんな場面でこんな指示が出せていた」とか「〇〇君は、山の学習を通してこんなふうに変わった」というように、子供の成長を共に確認し、その成長を喜び合えたことである。

キャンプファイヤーの終わりには、火の神から、「挑戦の火」「絆の火」「感謝の火」が授けられた。今も子供たちの心の中であかあかと燃え盛り、永遠に消え去ることのないものになっていると信じて疑わない。

六年「修学旅行」(令和三年十一月十八日(木)・十九日(金))

テーマ「Proud of」〜絆を深める旅にしよう〜 京都・奈良方面

六年生は修学旅行の目的を、京都・奈良方面とした。そして、法隆寺、奈良公園・東大寺、金閣寺、二条城、大秦映画村のほかに、今年度は「ライトアップされた紅葉の中の清水寺」「北野天満宮にて学問成就のご祈禱」を日程に組み入れた。

一日目。午後五時過ぎに、清水寺へ向かう坂を上る。坂の頂上にある清水寺に着いたころは、もう辺りは暗く、足元もおぼつかない。五時三〇分、一斉に点灯。五重塔をはじめ清水寺全体が、ライトで浮かび上がる。紅葉の中の清水は、実に荘厳で美しい。

二日目。朝一番で、北野天満宮を訪れる。初めて訪れたにもかかわらず、「北野」という名称に親しみを覚え、懐かしい感じがする。神殿の奥に通され、神主に学問成就のご祈禱をしていただく。神妙な顔つきの子供たち。

六年生諸君。修学旅行は、君たちの心にちゃんと刻まれただろうか。歴史の重みも、秋の紅葉という自然も、君たちの心には、ちゃんと刻まれたはずだ。

だが、六年生諸君。修学旅行は、どこに行ったかも大切だが、誰と行ったかが最も大切だ。法隆寺の五重塔を見上げた時も、奈良の大仏の大きさに圧倒された時も、きらびやかな金閣寺にうっとりした時も、バスの中も、ふとんの中も、隣には誰がいた？

そこには「友」がいたはずだ。「友」を、そして、この修学旅行でより強く結ばれた「友との絆」を、しっかりと君たちの心に刻んでおきたまえ。



五年生も六年生も、テーマの中に「絆」という文字を入れた。「友との絆」は、君たちのこれからの生活の原動力である。私には、山の学習や修学旅行において、より強固になった、君たちの「絆」がはつきりと、見える。

あこがれの高学年として、これからの学校生活・家庭生活において、どう考え、どう判断し、どう実行にうつすか。その歩みは力強い。